

価値創造の軌跡

1948年の創業以来、「我々は品質の良いものをつくりたい」という創業者の熱い想いととも、常にお客様に喜んでいただける製品づくりを心がけ、「品質第一」「顧客満足」を目指してきました。

創業期

1948年に愛知県瀬戸市にて日東工業株式会社を設立。瀬戸の陶磁器を活用した「カットアウトスイッチ」から始めました。

成長期

「標準分電盤・制御盤」「鉄製キャビネット」「システムラック」など、電気設備や機器の開発・提案を通じて電気や情報のインフラをさまざまなカタチでサポートしてきました。

安定期

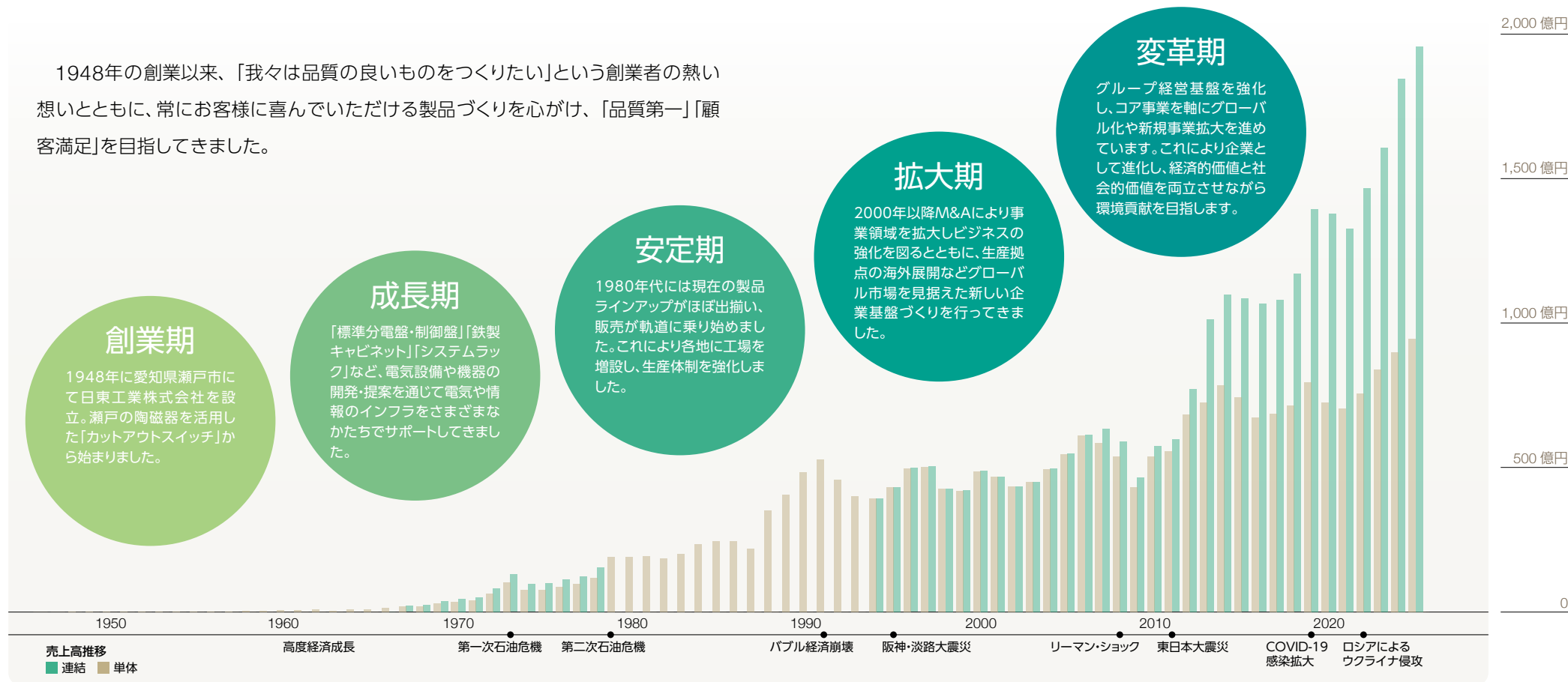
1980年代には現在の製品ラインアップがほぼ揃い、販売が軌道に乗り始めました。これにより各地に工場を増設し、生産体制を強化しました。

拡大期

2000年以降M&Aにより事業領域を拡大しビジネスの強化を図るとともに、生産拠点の海外展開などグローバル市場を見据えた新しい企業基盤づくりを行ってきました。

変革期

グループ経営基盤を強化し、コア事業を軸にグローバル化や新規事業拡大を進めています。これにより企業として進化し、経済的価値と社会的価値を両立させながら環境貢献を目指します。



1948年
カットアウト
スイッチ
販売開始



1951年
カバー付
ナイフスイッチ
販売開始



1963年
標準分電盤、
制御盤、
ホーム分電盤
販売開始



1966年
キュービクル式
高圧受電設備
販売開始



1967年
鋼板製キャビネット
販売開始



1969年
樹脂製ボックスの
販売開始



1975年
安全ブレーカ
販売開始



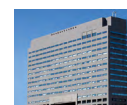
1980年
システムラック
販売開始



1996年
光接続箱
販売開始



2009年
電気自動車
(EV・PHEV) 用
充電器シリーズを
株式会社豊田自動
織機と共同開発



2013年
サンテホン
株式会社を
子会社化



2019年
北川工業
株式会社を
子会社化



2020年
個室型ワークブース
プライベートボックス®
販売開始



2023年
産業用太陽光自家
消費蓄電池システム
サファ Link-ONE-
販売開始



2024年
テンバール工業
株式会社を
子会社化

価値創造プロセス

日東工業グループの価値創造プロセスを1枚絵で示したものです。起点は一番左にある環境認識であり、常に社会課題を起点に考え、社会課題を解決することで社会的価値と経済的価値の両立により企業価値を向上させていくことが持続可能性を高めると考えています。



従業員メッセージ



変化の激しい時代において、日東工業グループのビジョンである「誠実に問題解決にとりくみ新たな価値創造に挑戦し続ける」を具現化するのは、最前線で「挑戦と変革」をおそれず行動する従業員一人ひとりです。今回は、当社グループの未来を担う3名の中核人材が登場。それぞれの現場から未来を動かす強い想いと、持続的な価値創造に向けた自発的な取り組みをご紹介します。

※左よりサンテレホン宮脇氏、日東工業齋藤氏、日東工業ランチダー氏

宮脇 ひかる

2023 年入社
サンテレホン株式会社
首都圏第二営業部 所属



私はサンテレホンで情報通信機器等の営業を担当しています。難しい案件やタイトな納期に対しても、社内の商材・技術担当者や取引先と連携した最適な提案や、地道な訪問活動による誠実な対応でお客様からの信頼獲得に努めています。以前、取引が途絶えていたお客様からの引き合いに対して、地道な訪問によりコミュニケーションを重ね関係性を再構築して受注に繋がった経験は、私の大きな財産となっています。

日々の活動を支えているのは、サンテレホンの「助け合いの風土」です。製品仕様に不明点があっても、各事業部の専門部隊に相談できる体制があり、商社でありながら技術的な課題解決を自社で完結できるという強みがあります。私が勤務する東京の拠点は1フロアに全部門が集約されているため、風通しが良く、部門を超えて協力し合う文化が根づいています。営業スタイルの自主性が尊重され、新しい挑戦を上長が後押ししてくれる自由な環境もあり、やればやるほど成長できる職場だと実感しています。

また、日東工業のグループ会社であることは新規のお客様への高い信用につながっています。お客様から引き合いをいただいた際に期待を上回る提案として日東工業の商材をあわせて紹介できることはグループの総合力の強みだと感じています。このように、グループの強みを掛け合わせることで、お客様の期待以上のソリューションを提供することこそが、私たちが目指す「誠実な問題解決」の本質だと確信しています。今後もスキルをアップデートし続け、「挑戦と変革」の風土のもとでグループの成長を牽引する一員でありたいです。

従業員メッセージ

齋藤 一樹

2006 年入社
日東工業株式会社
生産管理部 所属



私は日東工業の菊川工場にて、配電盤製造における生産管理や部品調達を担当しています。営業、開発、設計、生産現場といった多岐にわたる部門のハブとなるこのポジションでは時に板挟みになる苦労もありますが、現場の知恵を結集して困難な要望をクリアできた瞬間に大きなやりがいを感じています。

グループビジョンを自身の言葉に置き換えるなら、「今までのあたりまえを疑うこと」に他なりません。入社以来生産プロセスは日々進歩してきましたが、ペーパーレス化の推進や製造工程の自動化など、進化の伸び代はまだまだあると感じています。生産性の向上には一人ひとりの意識変革とともに新たなテクノロジーの導入が不可欠と考えており、従来の常識に捉われず日々の業務改善に向けた取り組みを地道に積み重ねています。

激変する外部環境の中で社員が誇りを持って能動的に動く組織を作るには、生産性向上や待遇改善だけでなく「働く楽しさ」を引き出すアプローチが必要だと考えています。その一環として、製造現場部門で実施されている教育プログラムである「配電盤の基礎教育」に、自部門の若手や中途入社した社員も参加させてもらうよう掛け合いました。座学だけでは見えない「わからないことが分かる喜び」や「自分の仕事が他部門へどうつながっているか」を体感してもらった結果、受講者からは仕事が楽しくなったと好評でした。この経験から、業務の背景やつながりを理解することがエンゲージメント向上に直結することを実感しました。今後はこのような取り組みを継続し、現場から日東工業で働く誇りと喜びを確かなものにしていきます。

ポンスラシーウィン ランチダー

2022 年入社
日東工業株式会社
海外事業推進部 所属



私は日東工業の海外事業推進課でタイやベトナムの市場を担当しています。現在は主に、電気火災の予兆を検知し建物や人命を守る製品「スパーテクト」の市場調査を行っています。タイでは建物や電線の老朽化による電気火災のリスクが深刻な問題になっていますが、技術的な用語を指す現地語がないなど、文化や言葉の違いから製品の必要性を正しく伝える難しさがあります。だからこそ、現地語で相手に寄り添って丁寧にコミュニケーションを取ることで、当社の技術が受け入れられていく過程を実感できることに大きなやりがいを感じています。

現在は、タイ地方配電公社 (PEA) や、そこから紹介された重要文化財へアプローチを広げるなど、少しずつ手ごたえを感じています。生まれ故郷であるタイで火災から大切な場所を守り、安心・安全に貢献することは、まさにグループビジョンである「誠実な問題解決」そのものです。この活動が防災製品のグローバル展開を加速させ、新たな価値創造を支える力になると信じています。

今後のさらなる成長にはダイバーシティの進化が不可欠です。私自身、海外の「まずは行動を起こし、物事を進めながら修正する柔軟さ」と、日本の「計画やプロセスを重んじるスタイル」のギャップに悩むことがあり、だからこそお互いの背景を丁寧に説明して橋渡しをすることを心がけています。社員の国籍の多様化が進んでいますが、言語の壁や仕事の進め方の違いを越え、異なる思考回路をフラットに認め合える風土が求められます。従来の日本スタイルに捉われず、多様な強みを互いに尊重できる、本当の意味で「オープンで強靱なグローバル企業」へと成長していくことを期待し、私もその一員として貢献していきたいです。

価値創造ストーリーの解説

未来をひらく日東工業グループの挑戦

日東工業グループは、単なる製品供給にとどまらず、地球の未来と社会の持続可能性を真摯に見据え、新たな価値創造に挑み続けています。私たちの価値創造プロセスは、常に社会が抱える根源的な課題を起点とし、その解決を通じて、社会的価値と経済的価値の双方を最大化することで、企業としての持続可能性を確固たるものにしています。この独自のプロセスは、以下に示す「事業環境」と、それを支える「経営環境」から始まります。

事業環境

持続可能な社会の実現に貢献するために事業を展開するうえで認識すべき環境

環境意識の高まり

- カーボンニュートラルへの対応
エネルギーシフト／モビリティ電動化の進展
資源活用／循環型経済
- 自然災害の激甚化
- 水セキュリティ意識の高まり

経営環境

責任ある企業として、ステークホルダーからの期待に応え続けるために認識すべき環境

ステークホルダーからの期待

- 資本効率を意識した経営
- 資金の適正配分
[成長投資／株主還元]
- 非財務情報の開示要請
- 高度なガバナンス体制

社会・経済構造の変化

- 労働人口減少、少子高齢化
- 都市の老朽化
- 地政学リスクの高まり
- 社会や人の価値観の変化

サステナブルな社会の実現

環境・社会・経済の
持続可能性への配慮により、
事業の持続可能性向上を図る経営が必要不可欠

事業環境

経営環境

プライム上場企業としての責務

グローバルで多くの
機関投資家の投資対象になり、
高いガバナンス・持続的な成長・企業価値の
向上が必要不可欠

テクノロジーの進化

- データ量の爆発的拡大
- デジタル技術活用の急速な広がり
- AI・IoTの急激な進化
- 電動化・電子化・自動化の進展
- サイバーセキュリティリスクの増大

グループ経営の高度化

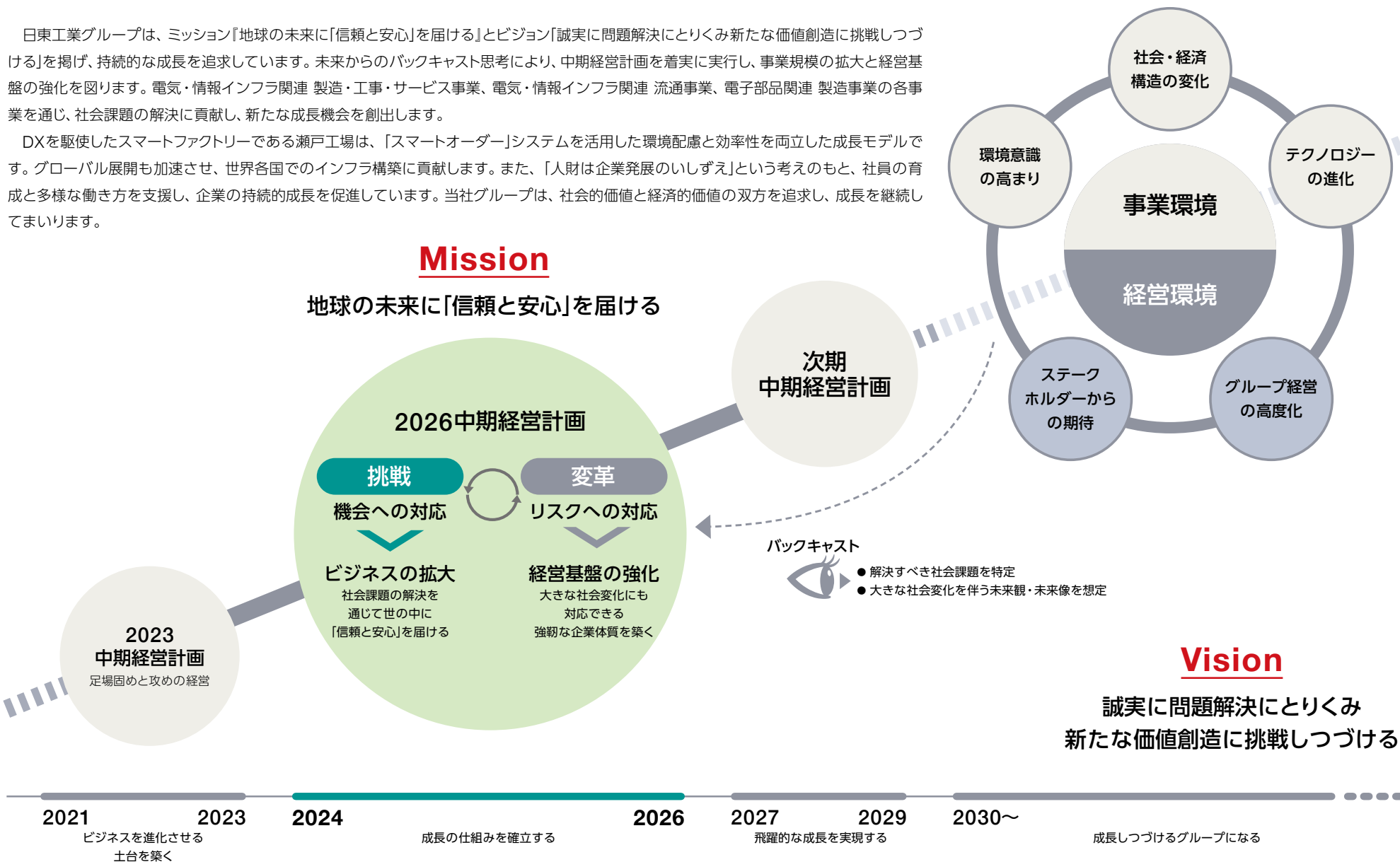
- シナジーの創出
- 成長事業への迅速な投資判断
- 事業ポートフォリオマネジメントの高度化
- リスクマネジメントのレベル向上



長期成長ストーリー

日東工業グループは、ミッション『地球の未来に「信頼と安心」を届ける』とビジョン「誠実に問題解決にとりくみ新たな価値創造に挑戦しつづける」を掲げ、持続的な成長を追求しています。未来からのバックキャスト思考により、中期経営計画を着実に実行し、事業規模の拡大と経営基盤の強化を図ります。電気・情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業、電気・情報インフラ関連 流通事業、電子部品関連 製造事業の各事業を通じ、社会課題の解決に貢献し、新たな成長機会を創出します。

DXを駆使したスマートファクトリーである瀬戸工場は、「スマートオーダー」システムを活用した環境配慮と効率性を両立した成長モデルです。グローバル展開も加速させ、世界各国でのインフラ構築に貢献します。また、「人財は企業発展のいしずえ」という考えのもと、社員の育成と多様な働き方を支援し、企業の持続的成長を促進しています。当社グループは、社会的価値と経済的価値の双方を追求し、成長を継続してまいります。



マテリアリティ

持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指し、環境変化を「挑戦」と「変革」の機会と捉えています。以下の取り組みは事業拡大と継続性を支え、ステークホルダーの期待に応えて、グループ経営を高度化する基盤となっています。

重要課題への取り組みは事業と深く関連し、未来を創造します。環境意識の高まりに対しては、再生可能エネルギー関連製品の強化やスマートファクトリーの稼働を通じて脱炭素社会・循環型社会に貢献し、事業成長と環境貢献を両立させています。社会・経済構造の変化に対しては、生産性向上に資する製品・サービスの提供を通じて労働人口の減少という課題に貢献し、インフラ構築や予防保全に関わる製品・サービスで強靱な社会の実現を支えています。テクノロジーの進化に対しては、DX推進によりシステム化で事業効率と価値創造を高め、サイバーセキュリティ強化で信頼を確保しています。

日東工業グループは、これらの課題に真摯に向き合い、「挑戦」と「変革」を繰り返すことで、社会に貢献し続ける企業グループとして未来を創造していきます。

事業環境の変化に伴う重要課題

環境意識の高まり

- ▶ 環境に優しい製品・サービスの提供を通じ環境負荷低減活動を推進し、脱炭素社会・循環型社会の実現に貢献する
- ▶ 防災・減災に関わる製品やサービスの提供により、強靱な社会の実現に貢献する

社会・経済構造の変化

- ▶ 生産性向上に資する製品・サービスの提供により、人口減少社会に貢献する
- ▶ インフラの更新・予防保全に関わる製品やサービスの提供により、強靱な社会の実現に貢献する

テクノロジーの進化

- ▶ IoT・AI・ロボティクス技術の進展を支え、ニューノーマル社会の構築に貢献する
- ▶ デジタル技術を活用した生産・販売システムの構築など、利便性の高いサービスを提供する

挑戦

機会への対応

社会課題の解決を通じて世の中に「信頼と安心」を届けることで事業拡大に挑戦する。

変革

リスクへの対応

経営基盤を強化することで、大きな社会変化にも対応できる強靱な企業体質に変革する。

経営環境の変化に伴う
重要課題

ステークホルダーからの期待

グループ経営の高度化

▶ 「挑戦」と「変革」を支える強固な基盤を構築